

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401400
法人名	株式会社 日進開発
事業所名	グループホーム 「くにみの里」
所在地	〒859-1325 長崎県雲仙市国見町多比良戊1449-416 (電話) 0957-78-5656

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 商工会議所1階
訪問調査日	H19年12月12日
評価確定日	H20年1月23日

【情報提供票より】( 19年 11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成) 14年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		600 円	

### (4) 利用者の概要( 11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	0 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴田長庚堂 島原保養院 徳永歯科医院
---------	--------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の長閑な場所に、関連施設と駐車場を挟んで、広いスペースを有して建設されている。利用者に配慮して、利用料は安く設定している。様々な福祉施設を持つ法人であり、人材の豊富さや情報の蓄積により、職員教育に尽力する事で、入居者が充実した生活を維持する事に、惜しみない支援をしている。又、同業者のネットワーク作りができており、他ホームの優れている点を取り入れ、常に向上心を持ち、常勤の職員により、チームケアを目指した関係作りを確立し、明るく楽しいホームへ方向付けている。入居者と職員が互いを尊重しながら、笑い声と会話が行き交う活発なホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を真摯に受け止め、評価時はメモを取り、質の向上に取り組む姿勢がある。前回の評価後は、改善計画シートを作成し、職員のコメントを載せた便り(毎月)の発行・栄養士によるカロリーチェック・歯科検診等、改善点が多く見られ、計画的に取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解し、職員全員でミーティングを開催し、意見や実施事項を管理者が集約して記述している。今回の評価に当たり、常に初心にかけける事を意識し、厳しい自己評価を実施する事で、現状に甘んじる事ない、質の確保に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回、利用者家族・市民生活課・各棟管理者・従業者・計画作成担当者の構成メンバーで開催し、行事・避難訓練・質疑応答が行われている。介護保険の勉強や、家族の忌憚のない意見が聞き取れ、仕事への取り組みの方向付けに、活かす意味で成果が上がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族には、日々の生活を織り込んだ便りの発行で、ホームからの情報を伝えている。ホームで行う敬老会や里祭りには、参加者が多く、会話をすることで、意見や要望の聞き取りをしている。今後は更に、家族が関心を持つ為の取り組みが必要であり、行事の前に家族会の開催や面会に積極的に来られる為の取り組みを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの周辺は畑が多くあり、農作業中の人とは、散歩時に挨拶を交わし、作物を頂き、お礼にお茶やジュースを返す関係である。又、小学生のボランティアや、中学生の福祉体験学習を受託するだけでなく、近くの保育園の行事を見学したり、老人会や里祭り等に参加したりと、来られるのを待つだけでなく参加する事で、行き来する地域との交流を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは介護サービスのあり方を認識し、入居される方の安心と尊厳のある生活を支援すべく、日々努めま		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	企業理念と基本理念を、申し送りノートの表紙に貼り、ホーム内の見やすい場所(玄関やトイレの壁)に掲示し、常に初心に帰り、確認を行いながら、入居者を尊重する理念の実践をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周辺は畑が多くあり、農作業中の人とは、散歩時に挨拶を交わし、作物を頂き、お礼にお茶やジュースを返す関係である。又、小学生のボランティアや、中学生の福祉体験学習を受託するだけでなく、近くの保育園の行事を見学したり、老人会や里祭り等に参加したりと、来られるのを待つだけでなく参加する事で、行き来する地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で、常に初心に戻る意味を込めて、厳しく自己評価に取り組み、ミーティングを重ね、管理者が意見を集約して実施している事を、正確に記述している。評価後は、改善計画シートを作成し、できる事は早急に取り組み、外部の他者から学ぶ姿勢がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、運営推進会議を開催し、行事報告や質疑応答を活発にし、介護保険の勉強や仕事への取り組みに活かしている。又、家族からは積極的に意見が聞け、仕事への取り組みの方向付けに、活かす意味で成果が上がっている。		

グループホーム「くにみの里」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	権利擁護事業の利用者があり、社会福祉協議会から訪問はあるが、介護保険関係は、事務所(関連のデイサービスにあり別棟)で市町村との連絡をしており、ホームで直接交流を持つ事はない。		出来るだけ職員が、市町村の担当者と顔馴染みの関係になり、今後広い庭や、施設を地域の人々の避難場所にする事で、地域に還元できる事に着眼されており、実現に向けて、積極的に交流を図られる事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月各棟の出来事や、入居者一人ひとりに担当者のコメントを織り込んだ、ホーム便りを作成し、郵送している。緊急時や必要時には、電話連絡を行い、暮らしぶりを伝えている。又、金銭管理は、事務所で明確に実施している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族は、多忙な人が多く、面会に来られない人と来る人の差がある。ホームの行事への参加はあるが、意見や希望は殆どない。安心しているのか、ホームに任せきりの状態が現状であり、聞き取る体制が、十分とはいえない。		預けているがゆえに、言い難い家族の心情を考慮し、傾聴の体制を前面に出す取り組みとして、行事の前に家族のみの、話し合いの場を設ける・便りに家族の意見を載せ、些細な事でも受けることをお伝えする等、様々な取り組みを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、全員が常勤であり、離職者は少なく、互いを思いやり相談し易い体制である。異動も最小限に抑え、A・B棟を行き来し、交流を図る事で、馴染みの関係が出来ており、やむを得ず交代が生じて、ダメージが少ない配慮が確立している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、ミーティングを開催し、行事や必要事項の話し合いを実施し、外部研修の受講後は、口頭で伝えている。又、グループホームケア研究会に参加しているが、頻繁ではない。学ぶ機会・記録方法・周知の方法等が不足している。		外部研修受講後は、報告文を作成し、参考資料と一緒に閲覧(記名)をする事で共有を図り、職員参加の会議は、参加者・議題を整理した会議録の記述を行い、ミーティングを職員の勉強会の場として、活用される事が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空室状況の情報ネットワークに加入したり、他ホームへ移動された入居者を訪問したりだけでなく、他ホームの行事やケア研究会の参加等、交流を深め、互いの良い点を取り入れ、運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者があると、自宅や病院を訪問し、家族を交えて説明をする。情報は、ホームへ持ち帰り相談し、家族には、施設見学をしてもらい、納得をし、安心して入居に繋がる様、努力をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者から学ぶ事が多く、伝承遊びや慣習(彼岸・お盆・正月等)について教わっている。常に同じ目線で話し、スキンシップを持ちながら、感謝の言葉を伝え、一緒に生活をしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者との会話や、家族から聞き出した情報を入居者情報に書き込み、生活歴を把握しながら、思いに添える取り組みに、尽力している。現在は、入居者記録表と生活歴・ADLの新しい書式に変更しているが、全員ではなく、一部の方のみなので、情報としては不十分である。</p>		<p>入居者の生活歴は、思いを把握するために必要不可欠であり、早急に全員の情報を記述し、誰が見ても分かり、共有できるものを作成されることを期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や、家族の主訴に沿って、担当者会議を開催し、職員の気付きを取り入れ、実践可能で、詳細な計画を作成している。作成後は、家族の来所持や自宅訪問をし、了解の記名・捺印・日付を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の記録は、実施状況と、介護計画に沿った記録で状況を把握し、3ヶ月毎や状態の変化に伴い、モニタリングを実施し、見直しを行っている。しかし、入居者の変化が少ない事が要因であるが、計画の継続が多く、モニタリング内容がマンネリ化している。</p>		<p>入居者の状態の変化は少なく、継続が現状であるが、モニタリングの方法を工夫され、毎月のチェック方式の活用や、継続部分と変更部分を明確にし、変化のある援助内容を織り込んだ計画の見直しを期待したい。</p>

グループホーム「くにみの里」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の意向に沿って、通院の送迎・宿泊・サービスへ参加・医療連携等、多機能性を活かした柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望に沿って、かかりつけ医の受診を行い、必要時には内科の往診をお願いしている。情報交換を行う事で、常に綿密な連絡体制を確立し、気軽に指示を仰げる関係づくりができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を話し、家族の希望を最優先しているが、現在までに実施はない。医療行為が生じてくると入院になることが多く、今後も継続して、終末期の相談を受けながら支援していく方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問時に居室を見せて頂く時は、入居者の許可を得ながら実施され、プライバシーへの配慮が窺える。失禁時は、他の人の視線を考え、見えないように戸を締めるようにし、職員には、常に注意を促し、尊厳に繋がる取り組みを実施している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を主体として、可能な限り本人の意思を尊重した、生活スタイルになるように支援しているが、職員の勤務体制により、食事の時間が(朝食7:00・昼食11:30・夕食4:30)全体的に早い時間帯に成っており、入居者本意とは言えない。		職員の勤務時間帯で17:30～20:00は1名での対応になっており、食事の介助や就寝等を考慮すると、時間帯の見直しが必要であり、今一度話し合いを実施し、職員の人数と勤務時間帯に、余裕を持って支援できる体制の確立を期待したい。

グループホーム 「くにみの里」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内に畑があり、収穫したものや近隣の作物(頂き物を含む)が食卓を飾る事が多く、入居者と共に食事に関する下ごしらえ・配膳・後片付け等、一連の作業を実施し、一緒に食す事で、家庭的な楽しい食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回入居者の状況を考慮して実施している。入浴拒否者には「子供さんの名前」「好物」を出しながら、「綺麗にして しましようね」と清潔保持に向けて努力している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、ホームの生活で役に立つ事を生き甲斐とされ、調理・お盆拭き・水遣り・草取りや趣味の折り紙等、できる事を率先してしている。職員は感謝の言葉を伝えながら、支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1~2回は少し遠くにドライブ(外食・温泉入浴・花見・紅葉見物)に行く事がある。又、庭の鶏のお世話・ゴミ捨て・散歩・ディサービス訪問等、出来るだけ外出の機会を取り入れた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出希望者には、誘導に工夫し、「少し休憩しませんか」等の声掛けにより気分を変えホーム内に留めたり、付き添いを行い、入居者の状況に応じた支援することで、日中は施錠する事はなく、鍵をかけないケアに努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いの昼夜を想定した自主訓練の実施や、マニュアルを作成し、消火・避難訓練を実施している。地震や水害等の天災による訓練実施はなく、備蓄や持ち出し品の把握は不十分である。		地域の住民に協力をお願いした避難訓練を実施し、地震や水害等の天災に関する非難訓練の実施や、移動困難になる非常時を想定し、施設内での備蓄や持ち出し品の把握に関する充実を期待したい。

グループホーム 「くにみの里」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、栄養士のチェックを受け、それに基づき応用しながら作成している。入居者の状況に応じて、現在は刻み食を提供している。食事量や水分量は確実に記録し、健康維持に尽力している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地にゆったりと建設され静かで、玄関・居室・居間・廊下は明るく広いスペースの確保があり、入居者は、畳の部分やソファやダイニングセット等、それぞれの居場所で過ごしている。訪問時はクリスマスの飾りがあり、季節の配慮が窺えた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部の居室は、生活の場としての設えが出来ており、居室の空間が十分に活かされている。全体的に閑散としており、ベット・床・棚に工夫がなく、家族の訪問時の居場所を含め、生活の場として寂しさがある。		入居者にとっての居室は我が家である事を考慮し、家族が来て和やかに過ごす場所(例、絨毯・ソファ・椅子)を考慮した居室作りを本人や家族に、充実した居室を参考にしながら、繰り返し話され、居心地の良い居室作りをされる事を期待したい。